

## 観光におけるバリア情報の提供のあり方について(ご意見一覧)

資料 8

組織	内容
<p>公益社団法人静岡県聴覚障害者協会</p>	<p>手話で接客対応のできる施設、手話通訳タブレットのある施設、光や音などで来客やガス漏れなどを知らせる装置のある宿泊施設、字幕表示テレビのある施設(ホテル、遊園地の行列コース間のテレビ)など、聞こえない人に対する配慮のある施設の情報が欲しいと思ったことがある。</p>
<p>一般財団法人 岐阜県身体障害者福祉協会</p>	<p>観光先のバリアフリーが当たり前になりつつあり、バリア情報が少なくなった気がする。再度、バリア情報の提供について見直す必要がある。</p>
<p>特定非営利活動法人 子育て支援のNPOまめっこ</p>	<p>初めて行く場所ではバリアフリーの情報を探すが難しいことがあります。例えばお店の入口に段差があるかどうか、子ども用の設備があるかどうかを検索した際にすぐ見つけられると助かります。</p>
<p>社会福祉法人 名古屋ライトハウス 情報文化センター</p>	<p>視覚障害者は、見えないため、その場の状況判断が難しい。どうしても情報が少ないため、事前に情報を得る手段が欲しい。観光ガイド・宿泊施設など、点字や音声、ウェブもアクセシブルなものにし、ロービジョンの方には見やすく、スクリーンリーダーでも利用できるホームページを推奨してほしい。</p>
<p>中部国際空港株式会社</p>	<p>旅行先の基本情報がWEBサイトに載っているものの、高齢者や障害者等が事前に注意すべきポイントや、高齢者や障害者等の目線で考えたときに必要な情報が載っていないことが多々あると感じております。WEBサイトにて公表できる情報を積極的に載せることで、バリアが少しでも下がり、より多くの方々が旅行に興味をもっていただく、または参加できるようになると思っております。セントレアとしても中部国際空港の公式WEBサイト内における空港設備情報、特に「お手伝いが必要な方へ」ページ内の情報(例:トイレや授乳室)が未だ不足していると課題認識を持っており、充実化していくことに取り組んでいるところであります。</p>
<p>名古屋市 健康福祉局 障害福祉部 障害企画課</p>	<p>「バリアフリートイレ」や「カームダウンスペース」などの用語の翻訳(英語・中国語・韓国語等)について、全国的に統一されていない状況なので、自治体・施設がバリア情報を提供するにあたっての壁となっていますし、それぞれがバラバラの表現をしているため、利用者側(外国人側)もわかりにくいと思います。</p>